



【本教材のガイダンスと到達目標】

- **対象者：** 神奈川県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）
- **特に向いている生徒：**
 - 世界地理を暗記科目だと思い込み、過去問の間 1 で安定して得点できない生徒
 - 時差計算、正距方位図法、統計グラフの判定で失点しがちな生徒
 - 「問題文が長文化して何をすればいいかわからない」と手が止まる生徒
- **このプリントでできるようになること：**
 1. 略地図を見たら、感覚ではなく「経緯度・基準線」から位置や方位を確定できるようになる。
 2. 統計資料を見たら、「割合」と「実額」の違いを見抜き、数値処理で起こりやすい誤りを回避できるようになる。
 3. 雨温図、植民地支配、日本の端の島など、繰り返し出題されたテーマの重要知識や因果関係を整理できるようになる。
- **推奨する使い方：**
 - **Step 1（理論の整理）：** 第 1 章～第 5 章を読み、神奈川県が求めている「考え方の型」を頭に入れる。
 - **Step 2（自力演習）：** 第 6 章の実戦定着ドリル（全 10 問）を、解説を見ずに解く。
 - **Step 3（誤答分析）：** 解答解説の「失点パターン」と照らし合わせ、自分のミスの原因を言語化する。
 - **Step 4（過去問演習）：** 末尾の「過去問演習優先度表」に従って、実際の入試過去問で型を再現する。

【冒頭 1 分要約：15 年分析が導いた結論】

【結論】 神奈川県の世界地理は「知識の量だけ」では決まらない。

15 年間共通して確認された 2 つの処理手順を使えることが重要である。

① 空間座標処理（15/15 年度・100%出題）

地図をイラストとして眺めるな。「赤道・本初子午線・経度 15 度＝1 時間・図法の定義」から幾何学的に位置・方位・時差を確定せよ。

② 定量的データ加工（15/15 年度・100%出題）

統計の最大値を探すだけで終わるな。「割合が下がっても実額は増える」「2 時点の倍率比較」「複数品目の合算」など、数値を一段計算して判定せよ。

★ 問題の見た目（小問数・K さんの探究形式）がどれほど変わっても、この 2 大処理は 15 年間一度も途切れていない。

第1章：神奈川県の世界地理は「暗記だけ」ではなく「情報処理」が必要だ

1. 15年間すべての年度で確認された「2大共通処理」

過去問対策において、「時差がよく出る」「雨温図が出た」「貿易統計を覚える」といった単元名の暗記だけで終わらせてはならない。2012年度から2026年度までの15年間の入試問題（問1）を横断分析すると、出題形式や題材が変わっても、15年間一度も途切れず要求され続けている「2つの処理」が存在する。

- **空間座標処理（15/15年度・100%）**：世界地図を単なる視覚的イラストとしてではなく、経線・緯線・赤道・図法定義に基づいた「幾何学的な座標系」として処理させる要求。
- **定量的データ加工（15/15年度・100%）**：統計表・グラフ・時刻・経度などから得られる数値や数量条件をそのまま読むだけで終わらせず、割合からの実額算出、倍率・合計・差の計算、時差や所要時間の算出など、一段以上の加工・照合を経て判断させる要求。

2. 外枠の変遷（変わったもの）と、変わらない中核

神奈川県の世界地理は、時代によって外枠が大きく変化してきた。

- **小問数**：2012～2020年度は3問～7問の間で激しく変動（2020年3問、2014年4問、2013・2017年5問、2015・2016・2019年6問、2012・2018年7問）→ **2021年度以降は「5問」で固定。**
- **解答形式**：2012～2017年度は記述式（日時・経度・所要時間・短文論述）が連続 → 2018～2020年度に全問記号選択式 → 2021年度の単発適語記述（大西洋） → **2022年度以降は「全問記号選択式」で固定。**
- **導入形式**：2012～2020年度は資料が直接提示される形式 → **2021年度以降は「生徒 Kさんの探究・調べ学習レポート形式」。**

学習の着眼点：

小問数や会話文の有無、記述か記号かといった「外枠」は変わっても、解法の根幹である「空間座標処理」と「定量的データ加工」は15年間変わっていない。過去問演習では、古い年度の答えを覚えるのではなく、「資料から何を確認し、どう加工したか（処理の手順）」を身につけることが極めて重要である。

第2章：不変の柱①「空間座標処理」——世界地図を幾何学的座標として解く

神奈川県の世界地理で提示される略地図は、感覚で眺めるものではない。経緯線や図法の幾何学的ルールに従って位置関係を確定させる必要がある。

1. 空間座標の基本数値と原則

基準・要素	角度・数値	地理的特徴・処理ルール
自転と時差	経度 15度 = 1時間	地球1周（360度）÷ 24時間 = 15度/時間。東へ進むと時間は進み、西へ進むと時間は遅れる。
赤道	緯度 0度	地球上で全周距離が最も長い（約4万km）。ギニア湾沖、スマトラ島・カリマンタン島、アマゾン川河口付近を通る。